

久留米大学を受診した患者さんへ

「変形性股関節症患者における神経障害性疼痛の有無が身体機能及び主観的尺度に与える影響」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
- 2) 受診科：整形外科
- 3) 対象疾患名：変形性股関節症
- 4) 使用する情報：術前検査 評価用紙 属性（性別、年齢、身長、体重）

あなたの情報を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：

研究代表者：

久留米大学病院リハビリテーション部 理学療法士 森 駿一朗

研究分担者：

久留米大学医療センター リハビリテーション部 理学療法士 谷口 侑紀

理学療法士 山添 貴弘

久留米大学 整形外科科学講座 教授 志波 直人

教授 大川 孝浩

講師 久米 慎一郎

助教 石橋 千直

2) 研究の意義と目的

日本における変形性股関節症患者（以下、股 OA 患者）は変形性関節症の中でも変形性脊椎症、変形性膝関節症について患者数が多いとされています。関節痛によって歩行能力や日常生活動作能力を著しく低下させ、Quality of life（以下、QOL）に大きく影響を及ぼします。股 OA 患者における股関節痛は、約 25%の患者において神経障害性疼痛の要素を含んでいると言われています。神経障害性疼痛の存在は患者の身体機能や QOL を低下させますが、股 OA 患者における神経障害性疼痛の有無と、身体機能や QOL との関連を検討した報告はみられません。

そこで、本研究では股 OA 患者における神経障害性疼痛の有無が身体機能や主観的尺度に与える影響を検討することを目的として行います。

3) 研究の方法：

人工股関節全置換術予定の患者に対して身体機能や日常生活動作等の手術前評価を行い、評価結果の判定・検証を行います。神経障害性疼痛の有無で比較し、両者での違いを身体機能と主観的尺度から検討します。

4) 研究期間：平成 28 年 11 月倫理委員会承認後～平成 30 年 10 月まで

5) 上記の情報の使用を選定した理由：人工股関節全置換術適応患者の術前評価の結果を判定・検証することで、対象症例に対する適切な理学療法を提供が可能となり、治療効果の向上へ繋がります。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

今回の研究で得られた情報は厳密に管理され、プライバシーに関する個人情報は保護されます。取得した個人情報を、個人が特定されるような形で公表することはありません。

7) 研究成果の発表の方法：日本股関節学会学術集会での発表、論文化

8) 利益相反：本研究は久留米大学病院リハビリテーション部の予算にて実施しており、特定企業からの資金援助はないため、利益相反は発生しません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学病院 リハビリテーション部 理学療法士 森 駿一朗
〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67
TEL 0942-31-7645 FAX 0942-46-6002（直通）

研究番号

研究番号 16162